



VOICETONE™ double

PRODUCT MANUAL

JAPANESE VERSION
ユーザーマニュアル

イントロダクション.....	4	設定の調節	19
クイックスタート	6	エディット内容の保存.....	20
複数台の VoiceTone を使用する場合	11	パッチリスト.....	21
フロント&バック・パネル.....	12	パッチリスト解説	22
セットアップ例.....	14	FAQ & トラブルシューティング.....	24
ファンタム・パワー	14	仕様及び性能.....	26
標準セットアップ	15		
ステレオ・セットアップ.....	16		
モノラル・サウンド・エンジニア・セットアップ	17		
ステレオ・サウンド・エンジニア・セットアップ	17		

イントロダクション

VoiceTone Double へようこそ

VoiceTone Double は、ステージ上でスタジオ・クオリティーのダブリングとシックニングを求めるライブ派のシンガーに向けた製品です。

VoiceTone Double のエフェクトは、世界の頂点に立つライブ・アーティストが使用するものと同じアルゴリズムによって生成されます。

ノイズフロア／ハーモニック・ディストーション／周波数特性などの音質面では、Double は既存の類似した機材を凌ぐ性能を発揮し、多くのハイエンド機をも凌駕します。

Double には、プロフェッショナルが作成した幅広いパッチが用意されています。既存のサウンドで物足りない場合は、設定を調節するための4つのコントロールが用意されており、エフェクトを素早く好みに合わせて調節できます。

主な特徴

- Overdub（オーバーダブ）と μ Mod（マイクロモッド）のデュアル・エフェクト・ブロック構成
- 多彩なダブリングのスタイルを網羅する 10バンク×3パッチのファクトリー・プリセットを搭載
- 異なるエディットがなされた2つのエフェクトを瞬時に切り替える A/B エフェクト・スイッチ
- パッチを素早く設定できる優れた操作性
- マイク・レベル I/O（XLR）、モノラル／ステレオ出力対応
- クリーンなスタジオ・クオリティのマイク・プリアンプ、ファンタム・パワー対応

TC-Helicon について

TC-Helicon では、「声」は世界で最も美しい楽器であると考えています。世界中にあふれる他の美しい楽器を蔑む意図はありませんが、考古学的にも「声」はあらゆるメロディの源と言えます。

TC-Helicon の創始者はこう述べています。「我々は全てをこの楽器（声）に捧げています。ライブやレコーディングで声を扱う人が、あらゆるパフォーマンスから無限の可能性と魅力を引き出すことができる世界を具現化したいのです。」

会社を設立するきっかけは、いたってシンプルな質問でした。「なぜ、声に特化したツールやソリューションが存在しないのでしょうか。」

シンガーにとって、これはどのような意味を持つのでしょうか。その答えは、カナダのビクトリア州にいるエンジニア・研究者・製品スペシャリストの集団が、シンガーとの会話や連絡／歌唱／リスニング・テストや評価などを通じて、全ての時間を「声」に捧げている、ということです。様々な活動から得られた経験と知識は、現代のヴォーカリストに向けた製品の開発に役立てられています。TC-Helicon の製品は、ヴォーカリストのクリエイティビティをかき立て、実力を発揮することを妨げる技術的なバリアを取り除くことを目標としています。だからこそ、ヴォーカル用のマルチエフェクト・ペダルからニアフィールドのパーソナル・ヴォーカル・モニターまで、多様な製品が用意されているのです。

Enjoy.

The TC-Helicon Team
a TC Group Company

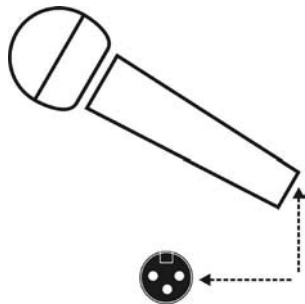
クイックスタート

ステップ 1:

マイクにマイク・ケーブルを接続します。

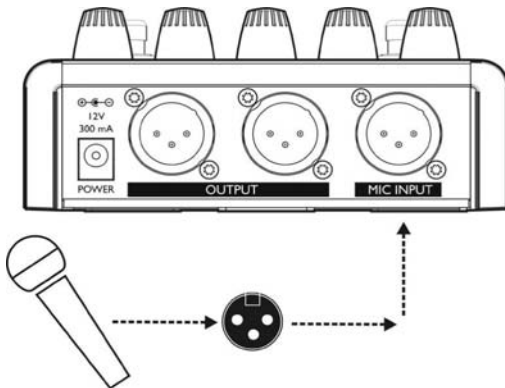
NOTE:

この時点では、Double の電源は入れないでください。



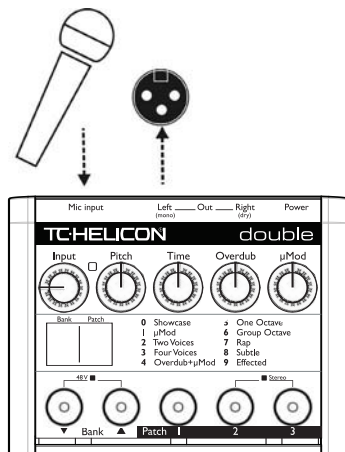
ステップ 2:

マイク・ケーブルを、Double の Mic Input 端子に接続します。



ステップ 3:

Double の Left Out 端子に XLR ケーブルを挿入します。

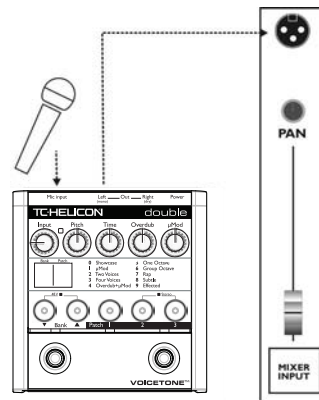


ステップ 4:

Double の出力をサウンド・システムの入力に接続します。

NOTE:

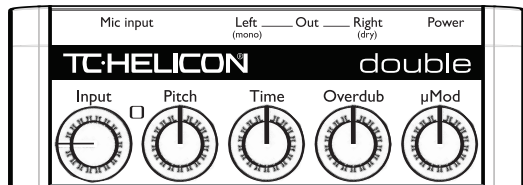
この時点で、サウンド・システムのマイク入力のゲインやボリュームが下がっていることを確認してください。



クイックスタート

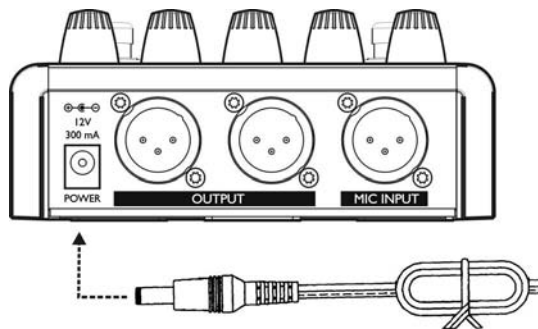
ステップ 5:

Input ノブを左に回しきります。



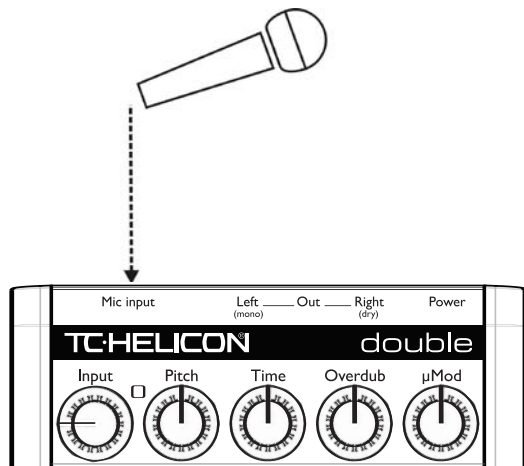
ステップ 6:

Double の電源アダプターを Double の Power 端子に接続し、コンセントに接続します。



ステップ 7:

マイクに向かって歌いながら、Input ノブを右側に回して行き、レベルを調節します。通常はグリーン、声の大きい場面では稀にオレンジに点灯するように設定します。赤く点灯させないでください。



ステップ 8:

ヴォーカルが良く聞こえるようになるまで、サウンド・システムのマイク・インプット・チャンネルとマスター・ボリュームを徐々に上げていきます。



クイックスタート

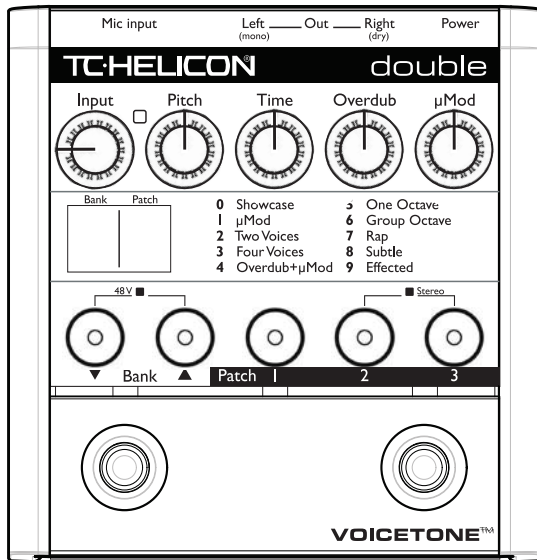
ステップ 9:

これで、準備は完了です。

- 右フットスイッチで、エフェクトをオン/オフできます。
- Patch 1 / 2 / 3 ボタンで、異なるパッチのサウンドを確認できます。他のバンクのパッチを試すには、Bank ▲ボタンを押してバンクを切り替えてから、そのバンク内のパッチを選びます。

NOTE:

パッチによっては、一聴するだけでは同じに聴こえるものがあるかもしれません。パッチの違いを確認する方法としては、子音の立ち上がりが鋭く母音が持続する単語を歌ってみることをお勧めします（例：「チュー」、「Two」）。こうすることにより、音の立ち上がり部分と持続音それぞれに対するエフェクトによるサウンドの変化が同時に確認できます。



複数台の VoiceTone ペダルを使用する場合

2 台または 3 台の VoiceTone ペダルを直列に接続することができます。
接続順は極めて重要です。

- VoiceTone Correct は、Double の前に接続します。
- VoiceTone Create は、Double の後に接続します。

ステップ 1:

2 台の VoiceTone ペダルを、それぞれの製品のクイックスタート・ガイドの指示に従って設定します。

ステップ 2:

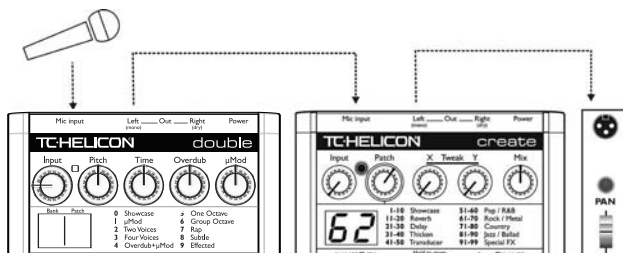
Double の出力を PA に送る代わりに、モノラルの出力を Create のマイク入力に接続します。

ステップ 3:

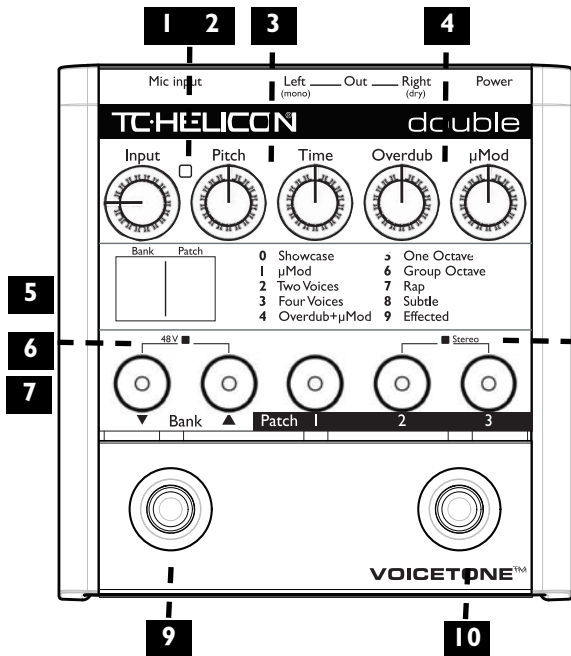
2 台目の VoiceTone (この例では Create) の出力を PA に送ります。

ステップ 4:

VoiceTone Create の Input ノブを左に回しきります。



フロント & バック・パネル



1. Input - インット・ノブ

マイク・プリアンプのゲインを調節します。ダイナミックとコンデンサー・マイクを使用できます。

2. インット・ライト

マイクの入力レベルを示します。通常はグリーン、稀にオレンジに点灯する状態が最適です。赤が点滅する状態はクリッピングを示し、避けてください。

3. Pitch / Time - ピッチ/タイム・ノブ

パッチに対するピッチとタイムそれぞれのヒューマニゼーション適用量を指定します。

4. Overdub / μMod - オーバーダブ / μMod ノブ

オーバーダブ・ヴォイスと μMod ヴォイスの相対的なミックス・レベルを調節します。

5. Bank / Patch - バンク/パッチ・ディスプレイ

選択されているバンクとパッチを表示します。

フロント & バック・パネル

6. 48V - ファンタム・パワー・ライト

ファンタム・パワーの状態を表示します。

7. Bank - バンク・セレクト・スイッチ

バンクを選択します。上下矢印で、10バンクを順番に切り替えます。

8. Stereo - ステレオ・ライト

ステレオ・モードの状態（オン/オフ）を表示します。オンの場合はステレオ出力となり、オフの場合はモノラルにサミングされます。

9. レフト (左) フットスイッチ：A/B エフェクト

A/B の設定で最後に選択されたパッチを切り替えます。スイッチを長押しすると、選択されているパッチがそのパートに保存されます。

10. ライト (右) フットスイッチ：エフェクト・オン/オフ

ダブリング・エフェクトをオン/オフします。

11. Mic Input - マイク・インプット

マイクをここに接続します。

12. Left Output - レフト (左) アウトプット (モノ)

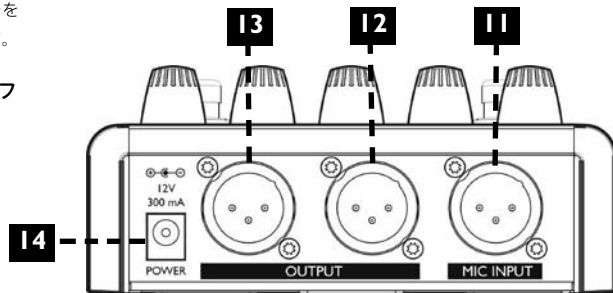
Stereo / Mono の設定状態によって、左チャンネルまたはモノラルの出力としてサウンド・システムに接続します。

13. Right Output - ライト (右) アウトプット

Stereo / Mono の設定状態によって、右チャンネルまたはモノラルの出力としてサウンド・システムに接続します。

14. Power - 電源入力

付属のパワー・サプライ用の入力コネクターです。



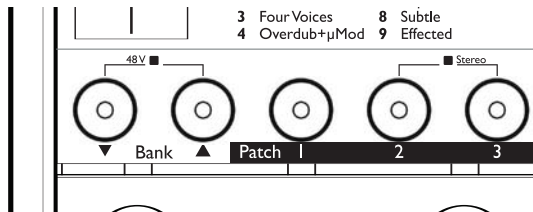
セットアップ例

ファンタム・パワー

セットアップを行なう前に、使用するマイクのタイプを確認します。ダイナミック・マイクの場合はファンタム・パワーをオフに、一般的なコンデンサー・マイク（バッテリーや専用の電源ユニットを必要としないもの）の場合はファンタム・パワーをオンにします。

ファンタム・パワーをオンにする

1. サウンド・システムのマスター・レベルがオフであることを確認します。
2. ポップ・ノイズを回避するために、ミキサーまたは Double の出力先のファンタム・パワーをオフにしてください。
3. Double の電源アダプターを Double の Power 端子とコンセントに接続します。
4. ファンタム・パワーをオンにするには、48V ライトが点灯するまで 2 つの Bank ボタン（上下）を両方同時に長押しします。ファンタム・パワーをオフにするには、48V ライトが消えるまで再度 2 つの Bank ボタン（上下）を両方同時に長押しします。



NOTE:

ファンタム・パワーをオン/オフする際にはノイズが生じることがありますので、事前にサウンド・システムのレベルをオフにしてください。

標準セットアップ

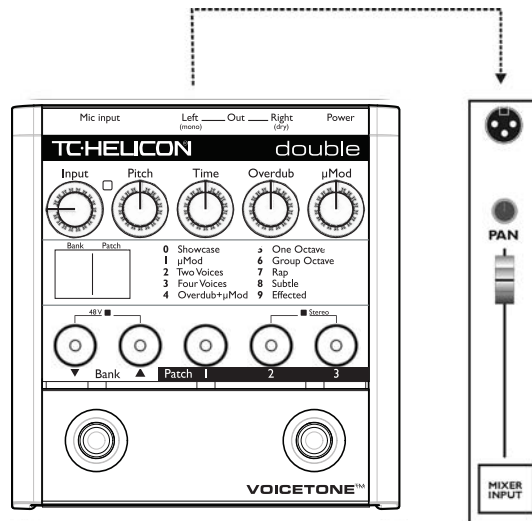
標準的なセットアップはいたってシンプルで、サウンド・システムとマイクの間で VoiceTone Double が入ります。このセットアップ例では、Left Output がドライとウェット信号がミックスされたモノラルの出力を行いません。Right Output はページ 17 のモノラル・ライブ・サウンド・エンジニア・セットアップで使用するドライのみの信号となりますので、標準的なセットアップでは必要ありません。

標準的なセットアップにおける接続と設定

1. マイクを Double の Mic Input 端子に接続します。
2. Left Out をサウンド・システムの入力チャンネルに接続します。
3. Double の電源アダプターを Power In 端子とコンセントに接続します。

NOTE:

Double の工場出荷時の設定ではステレオ・モードはオフ（モノラル）となっています。Stereo ライトが点灯していてモノラルで使いたい場合は、Stereo ライトが消えるまで LED の下にある 2 つのスイッチを長押しします。



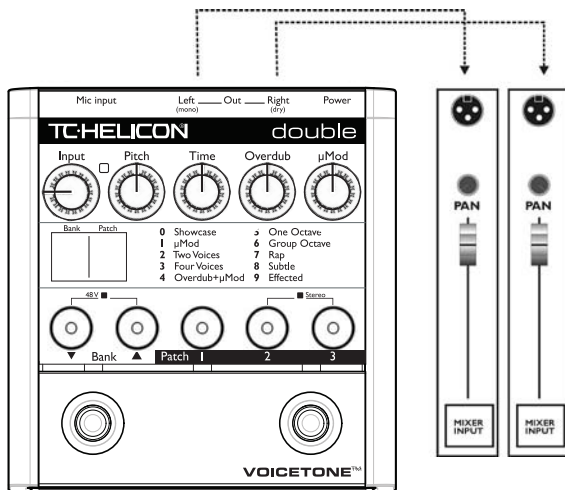
セットアップ例

ステレオ・セットアップ

サウンド・システムをステレオで使用したりレコーディングを行なう場合は、ステレオ・モードを使用します。このセットアップでは、エフェクト・パッチの空気感が増します。Left と Right Out を接続先のステレオ入力に接続します。

ステレオ・セットアップにおける接続と設定

1. マイクを Double の Mic Input 端子に接続します。
2. 図の通り、Left と Right Out を接続先のマイク入力チャンネル2系統に接続します。Left Out から接続したチャンネルのパンポットは左に、Right Out から接続したチャンネルは右に回しきります。
3. Double の電源アダプターを Power In 端子とコンセントに接続します。
4. Stereo LED が点灯するまで Patch 2 と 3 のボタンを同時に長押しします。モノラル・モードに戻るには、Stereo LED が消えるまで同様に Patch 2 と 3 のボタンを同時に長押しします。



セットアップ例

モノラル・サウンド・エンジニア・セットアップ

ライブ環境でヴォーカルのサウンドを調節する PA エンジニアがいる場合は、ウェットとドライ信号のミックス・バランスをエンジニアに任せすることができます。このセットアップでは、片方のチャンネルにはドライのヴォーカルが、もう片方には完全にウェットの信号が出力されます。この二つの信号をミックスして、任意のエフェクト・バランスを得られます。

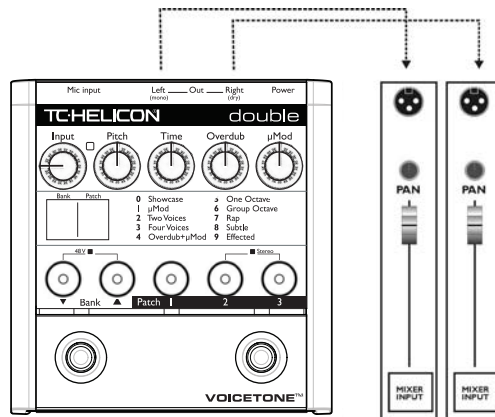
モノラル・サウンド・エンジニア・セットアップにおける接続と設定

1. マイクを Double の Mic Input 端子に接続します。
2. Left と Right Out をサウンド・システムのマイク入力チャンネル 2 系統に接続します。各チャンネルのパンポットはセンターに設定します。
3. Bank Up と Patch 1 ボタンを同時に長押ししながら、Double の電源アダプターを Power In 端子とコンセントに接続します。

4. Stereo LED が消えていることを確認します。点灯している場合は、Stereo LED が消えるまで Patch 2 と 3 のボタンを同時に長押しします。

NOTE:

このモードは一時的な設定で、電源を投入する度に設定する必要があります。



セットアップ例

ステレオ・サウンド・エンジニア・セットアップ

ライブのステレオ PA 環境やレコーディング時で、ドライ信号を完全にミュートして 100% ウェットの信号のみを出力させることができます。このセットアップでは、マイクは Double の Mic Input に接続せずにミキサーのマイク入力を使用し、ミキサーの AUX センドから Double に信号を送ります。

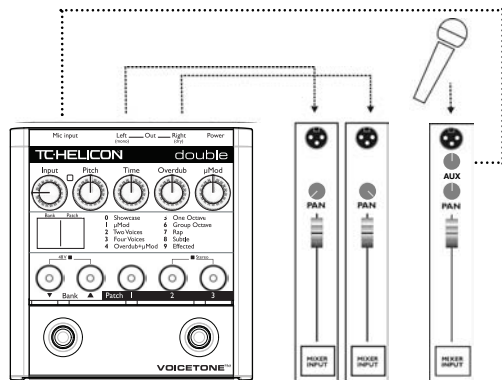
ステレオ・サウンド・エンジニア・セットアップにおける接続と設定

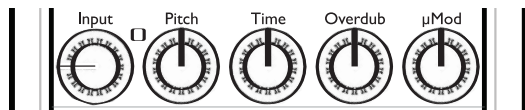
1. マイクをミキサーの入力チャンネルに接続します。
2. ケーブルをミキサーの AUX センドから Double の Mic Input に接続します。
3. Double の Left と Right Out をサウンド・システムの入力チャンネル 2 系統に接続します。各チャンネルのパンポットは左右に振り切ります。
4. Bank Up と Patch 1 ボタンを同時に長押ししながら、Double の電源アダプターを Power In 端子とコンセントに接続します。こうすることにより、ドライ・ヴォイスはミュートされます。

5. Stereo LED が点灯していることを確認します。点灯していない場合は、Stereo LED が点灯するまで Patch 2 と 3 のボタンを同時に長押しします。

NOTE:

このモードは一時的な設定で、電源を投入する度に設定する必要があります。





エディット・コントロール

VoiceTone Doubleでは、パッチの設定を調節するための4つのコントロールが用意されています。A/Bいずれかのパートを選択した後で(状態はLEDに示されます)、4つのノブで設定を変更できます。設定を変更するには、まずノブを保存されている値まで動かすことが必要です。これは保護的な観点からの配慮で、誤ってエディット・コントロールを触れてしまった際に設定が飛んでしまうことを防止します。また、設定を変更する前に、保存されている値の目安がわかるという利点も兼ね備えています。

各エディット・コントロールの保存されている値を確認するには、該当するコントロールを少しだけ回します。BankとPatchディスプレイに値が一時的に表示されます。ノブの位置が保存されている値に一致すると、表示は消えます。

Pitch (ピッチ) と Time (タイム) は、パッチの Overdub (オーバーダブ) レベルが上がっている状態でないと効果を確認できません。プリセットによっては μMod のみを使用してオーバーダブ・レベルがゼロになっているものがあります。

Pitch - ピッチ

オーバーダブ・ヴォイスは、複数のシンガーによるダブリングの歌唱による効果をシミュレートするために、発声時 (オンセット) の音程と持続音 (サステイン) の音程を個別に調節します。Pitch コントロールはこの音程変化の適用量を調節します。

Time - タイム

オーバーダブ・ヴォイスは、異なるシンガーや同一シンガーによる別テイク時の微妙なタイミングのばらつきをシミュレートするために、タイミングのディレイと可変的なタイム・コンプレッション/エキスパンションを行いません。Time コントロールは、このタイミング変化の適用量を調節します。

設定の調節

Overdub と μ Mod コントロールは2つのエフェクト・ブロック間の相対的なレベルを調節するためのミキサーとしての役割を果たします。

Overdub - オーバーダブ

オーバーダブ・ヴォイスのレベルを調節します。このブロックは、機械的に聴こえがちな電子的処理によるダブリングに比べて、リアルなダブリング効果を得るための処理を行いません。

μ Mod

μ Mod エフェクト・ブロックのレベルを調節します。このブロックは、コーラスやディチューン/マイクロシフト、フランジャーといった効果を得るための処理を行いません。

エディット内容の保存

パッチの設定を好みに合わせて調節したら、A/B フットスイッチを長押しすることによってその設定を保存できます。パートAのパッチをエディットした場合の保存先はパートAとなります。パートBに別のパッチをエディットして保存する場合には、まずBフットスイッチを押してパッチを選択し、必要に応じてエディットを行ってからBフットスイッチを長押しします。

一度エディット済みのパッチを保存したら、そこから設定を変更しても、後から保存した状態の設定に戻ることができます。保存した状態の設定に戻するには、電源を一度オフにしてから電源を再投入します。

エディットを行なった後でパートA/Bに保存した内容を工場出荷時のパッチに戻すには、一度他のパッチを呼び出してから、そのパッチを直接いずれかのパートに保存します。

パッチリスト

バンク名	バンク番号	パッチ 1	パッチ 2	パッチ 3
Showcase	0	Mono Overdub	4V Porta Detune	Oct Down Stereo
Microshift	1	E Type McrShift	Sweet Chorus	Wide Detune
2 Voices	2	Two Overdubs	2 Vox Mono	2V Porta Detune
4 Voices	3	Four Overdubs	Mixed Genders	4 Vox Corrected
Combi	4	1 Vox Detune	2 Vox Chorus	Mono 4V Flange
One Octave	5	1 Vox Oct Down	Oct Down Male	Oct Up Female
Group Octave	6	Male Octaves	Female Octaves	2 Uni 2 Oct Up
Rap	7	Rapper Add One	Rappers Add Two	Rapper Crowd
Subtle	8	TCH Thickener	Correct Overdub	Subtle Spread
Effectd	9	2Vox Flange	Mixed Genders	2 Vox Rotor

パッチリスト解説

プリセットの概要は次の通りです。パンニングについての解説は、デフォルトのモノラル・アウトプット・モード時には無効です。

Mono Overdub (モノ・オーバーダブ) - 1 オーバーダブ・ヴォイス、パンニング=センター、若干のピッチ・エフェクトとポルタメント。単一トラックのオーバーダビングをシミュレート。

4V Porta Detune (4 ヴォイス・ポルタメント・ディチューン) - 4 オーバーダブ・ヴォイス、ポルタメント=120ms、ディチューン=±3セント/±6セント、ステレオ・ワイズ=狭め。

Oct Down Stereo (オクターブ・ダウン・ステレオ) - 1 オーバーダブ・ヴォイス、オーバーダブ・ピッチ・エフェクト=1オクターブ・ダウン、μMod 経由で 100% ウェット。

E Type McrShift (E タイプ・マイクロシフト) - 定番プロセッサの毛色を実現する μMod のみのエフェクト。オーバーダブ・ヴォイスは未使用。

Sweet Chorus (スイート・コーラス) - シンプルで効果的なコーラス・エフェクト。オーバーダブ・ヴォイスは未使用。

Wide Detune (ワイド・ディチューン) - ドライ・ヴォイスは μMod エフェクト・ブロックのみに送られます。オーバーダブ・ヴォイスはミュートされていますが、Overdub レベルを上げることで後から加えることができます。

Two Overdubs (2 オーバーダブ) - 4 つの内 2 ヴォイスを使用したステレオ・シミュレーション、若干のスクーピングを追加。ポルタメントなし。

2Vox Mono (2 ヴォイス・モノ) - 2 オーバーダブ・ヴォイス、パンニング=センター、ポルタメントとスクーピング。

2V Porta Detune (2 ヴォイス・ポルタメント・ディチューン) - 2 オーバーダブ・ヴォイス、ポルタメント=120ms、ディチューン=±6セント、ステレオ・ワイズ=左右ハード・パンニング。

Four Overdubs (4 オーバーダブ) - 4 オーバーダブ・ヴォイス、強めのスクーピング/ピッチ・ディチューン/ランダマイゼーション/ポルタメント。

Mixed Genders (男女混合) - 4 ユニゾン・ヴォイス、ジェンダー(性別)混合、ディチューンならびにピッチ・エフェクト。

4Vox Corrected (4 ヴォイス・補正) - 4 オーバーダブ・ヴォイス、ヴォイス毎に異なる設定のピッチ補正アタック・タイム、若干のタイミング分散。

1Vox Detune (1 ヴォイス・ディチューン) - 単独のモノラル・オーバーダブ・ヴォイス、ディチューン=-16セント、直列で±12セントの μMod ディチューンに接続(ワイド・パンニング)。ドライ・ヴォイス未使用。

2Vox Chorus (2 ヴォイス・コーラス) - ディチューン = ±3セントの2オーバーダブ・ヴォイスをμModコーラスに接続。

Mono 4V Flange (モノ4ヴォイス・フランジャー) - センター・パンニングの4オーバーダブ・ヴォイスをステレオ・フランジ・エフェクトに接続、独特なパノラマ感を実現。

1Vox Oct Down (1 ヴォイス・オクターブ・ダウン) - 単独ヴォイスによる「ドライ」なオクターブのオーバーダブ。男性寄りのジェンダーとピッチ・エフェクト。μMod未使用。

Oct Down Male (オクターブ・ダウン [男性]) - 1オクターブ下、ジェンダー = 男性。

Oct Up Female (オクターブ・アップ [女性]) - 1オクターブ上、ジェンダー = 女性。ポルタメント、女性よりのジェンダー、ピッチ・ランダマイゼーション。

Male Octaves (オクターブ [男性]) - 4ヴォイス、ディチューン、ジェンダー = 男性。ドライとオーバーダブ・ヴォイス両方にμModディチューンを追加。

Female Octaves (オクターブ [女性]) - 女性の特徴、それ以外はMale Octavesと同様

2Uni 2 Oct Up (2ユニゾン、2オクターブ・アップ) - オクターブ・アップのピッチシフト、ならびにユニゾン・ダブリング

Rapper Add One (ラッパー、1ヴォイス追加) - ラッパー・プリセットはメロディーには適していません。単独の声を元に、グループに

よる掛声やシャウト系の効果を得られます。このプリセットはハイピッチのランダムとスクープの設定で1ヴォイスを追加します。

Rapper Add Two (ラッパー、2ヴォイス追加) - 2ヴォイス、ワイド・パンニング。ドライ・レベルを下げるか、オフをお試しください。

Rapper Crowd (ラッパー、群衆) - 4ヴォイス、男女混合、極端なピッチ・エフェクト。ドライとオーバーダブ・ヴォイスはμModブロックを経由。

TCH Thickener (TCH シッケニング) - Eタイプ・プリセットに類似。LRディレイ・タイムは統一、フィードバック = オフ。

Correct Overdub (補正オーバーダブ) - 単独ヴォイス、クロマチック・スケールに若干の補正とポルタメント。違った色合いのダブリングを実現。

Subtle Spread (スプレッド [隠し味]) - ±5セント、ディレイ = 5.0 / 5.2ms、クロス・フィードバック。

2Vox Flange (2 ヴォイス・フランジャー) - 2オーバーダブ・ヴォイス、フランジャー効果。

3D Flanger (3D フランジャー) - ステレオ音場を駆け巡るフランジャー効果。

2Vox Rotor (2 ヴォイス・ローター) - 2オーバーダブ・ヴォイス、レズリー・タイプのエフェクト。

FAQ & トラブルシューティング

FAQ & トラブルシューティング

1. Double から音が出ません。

- a. 電源アダプターが正しく接続されていることを確認してください。通常は、数値ディスプレイにパッチ番号が表示されています。
- b. マイクに向かって声を出してください。Input ライトがグリーンまたはオレンジに点灯するはずですが、Input ライトが点く場合は、サウンド・システムへの接続と設定を確認してください。Input ライトが点いていない場合は、右フットスイッチを踏んでエフェクトをオフにしてから Input ノブの設定を変えてみて、その状態でドライ（エフェクトなし）の信号が聴こえるかご確認ください。コンデンサー・マイクを使用している場合は、必要に応じてファンタム・パワーを供給してください。

2. エフェクトのかかっていない、元の声しか聴こえません。

- a. ステレオ出力モードを使用している場合、エフェクト・オン・ライトが点灯している状態にしてください。オフの場合は、右フットスイッチを一度押します。また、Overdub と μ Mod ノブが両方オフ（左に回しきった状態）となっていないことをご確認ください。
- b. モノラル・サウンド・エンジニア・モードを使用している場合、サウンド・システムに接続されている出力をご確認ください。エフェクトがかかるのは、左アウトプットのみです。エフェクトが生成されていない場合は、エフェクト・オン・ライトが点灯していることを確認してください。オフの場合は、右フットスイッチを一度押します。

3. Pitch / Time / μ Mod / Overdub ノブを回しても、音が変わりません。

- a. エフェクト・オン・ライトが点灯している状態にしてください。オフの場合は、右フットスイッチを一度押します。
- b. 全てのパッチが全ての機能を使用しているとは限りません。ノブを一度左に回しきってから右に回しきって、そこから調節を行なってみてください。

4. サウンドが歪みます。

- a. Input ライトが赤く点滅することがないにも関わらずエフェクトがオンの時にだけ歪みが生じる場合には、 μ Mod と Overdub レベルを下げてみてください。
- b. Input ライトが赤く点滅することがないにも関わらず歪みが生じる場合には、PA ミキサー側のゲインが高すぎる可能性があります。
- c. エフェクトがオフの状態でもサウンドが歪む場合は、インプット・ライトが通常緑で稀にオレンジに点灯するまで、Input ノブを左に回してください。それでも Input ライトが赤に点滅する場合は、口をマイクから離すか、マイク信号を外部ミキサーの AUX 信号から送ってください。

仕様及び性能

アナログ入力

- ◆ コネクター：バランス XLR、入力インピーダンス 1k Ω
- ◆ マイク・インプット感度 @ 0dBFS：-44dBu ~ +2dBu
- ◆ マイク・インプット感度 @ 12dB ヘッドルーム：-56dBu ~ -10dBu
- ◆ EIN-128dBu @ 最大マイクアンプ・ゲイン、 $R_g = 150 \Omega$

アナログ出力

- ◆ コネクター：バランス XLR
- ◆ 出力インピーダンス：40 Ω
- ◆ 出力レベル @ 0dBFS：+2dBu

アナログ・オーディオ性能（入力→出力）

- ◆ ダイナミックレンジ（マイク @ 最小ゲイン時）：>108dB、20 Hz ~ 20kHz *A-weighted
- ◆ ダイナミックレンジ（マイク感度 @ -18dBu 時）：>104dB、20 Hz ~ 20kHz *
- ◆ THD+ ノイズ（マイク @ 最小ゲイン時）：<-90dB
- ◆ 周波数特性（最大ゲイン-1.5dB @ 40Hz）：200Hz ~ 20kHz (+0/-0.3dB)

コンバージョン特性

- ◆ サンプルレート：48 kHz
- ◆ コンバータ：AKM AK4620B
- ◆ AD/DA コンバージョン：24 ビット、128x オーバーサンプリング・ビットストリーム

EMC & 安全

- ◆ EN 55103-1 and EN55103-2 FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
- ◆ IEC 65, EN 60065, UL6500 and CSA E60065 CSA FILE #LR108093

環境

- ◆ 作動環境温度：0 °C ~ 50 °C
- ◆ 保管環境温度：-30 °C ~ 70 °C
- ◆ 湿度：最大 90%（結露なきこと）

その他

- ◆ 寸法：130 mm × 132mm × 41mm
- ◆ 重量：0.72 kg
- ◆ 製品保証：1 年

製品の改良のため、仕様は予告なく変更となる場合がございます。